



Contents

- ◇ 会長室から、こんど～です
- ◇ 経営まめ知識：『弊社のクラウド経営について』
- ◇ いまさら聞けない相続税の仕組みシリーズ

11

2015 Vol.144

たいせい通信のメール配信をいたします。

ご希望される方は、下記のメールアドレスに、件名を【たいせい通信メール配信希望】とし、お名前、会社名、電話番号を明記の上、送信ください。

info@taiseikeiei.co.jp



大成経営コンサルティンググループは、財務会計総合コンサルタント業として、企業経営に関するあらゆるご相談にワンストップで対応しております。

- ◆(株)大成経営開発・・・・・・・・・・財務会計総合コンサルティング <http://www.taiseikeiei.co.jp>
- ◆(株)大成財産コンサルタンツ・・・・相続相談・終活相談・資金調達運用
会社売買・生命保険損害保険 <http://www.fzc-souzoku.com>
(九州相続センター) 不動産・営業支援代理店業
- ◆(株)アップワード エスト保険・・・・・・生命保険、損害保険 <http://www14.ocn.ne.jp/~esthoken>
- ◆(株)大成アフェクション・・・・・・・・・・居宅介護支援、通所介護事業
- ◆(株)大成グローバルトレーディング・・・・・・・・・・商社、貿易業務 <http://www.taisei-gt.co.jp>

■大成経営総合事務所

清永税理士事務所・飛石税理士事務所・徳留税理士事務所・浦野税理士事務所・高木社会保険労務士事務所・竹馬社会保険労務士事務所・社会保険労務士あきおか事務所・おかもと社会保険労務士事務所・須賀経営労務研究所・的場土地家屋調査士事務所・行政書士法人エド・ヴォン

(株)大成経営開発 統括室発行 Tel: 096-377-1101 Fax: 096-377-1114

会長室から、こんど～です

朝晩冷え込むようになってきました。今年もあと2か月となりましたね。

今月は、最近のお客様のお悩み事について考えてみました。
よく耳にするのが人手不足です。特にサービス業のお客様は四苦八苦されているようです。若い女性にアンケートを取ったところ、彼氏にしたくない職業の中に、【日曜日お休みでない仕事】というのがありました。【サービス業は辛い、きつい】というイメージのようで、そのイメージが強いところにはなかなか人が集まらないのが現状だそうです。



そうなってくると、企業側では若い人が働きたいと思う風土づくりをしていかねばなりません。大手企業は可能なことが中小企業では難しかったりと問題もたくさんあります。おかれた環境の中で事業を営んでゆくには、どうしてゆけばいいのかは頭の痛いところです。

今から独り言です。。。

私が10代～20代の頃は、まず運転許を取得して、車を買って、いろいろなところに遊びに行く！ 一生懸命働いて、たくさん給料をもらって欲しいものを買う！ 会社に文句言うなんてとんでもない。「寝る暇あるなら、与えられた仕事を期限までに終わらせろ！」なんて言われながら頑張ったもんです。今の人は、給料よりも自分の時間がほしい！ 車もあればいいけど、それほど欲しいものではない。仕事は土日祭日お休み、完全週休2日が希望！と聞きます。環境が変わったといえればそれまでですが、そんなもんですかね～。。。（独り言終わりです）

今の労働基準法では、1日8時間・週40時間を超えて労働させてはならないと定められております。これを超える場合は、労使協定が必要です。これはブラック企業というマスコミの報道により、今まで当たり前として働いていた人も、自分の働いている環境ももしかしておかしいのではないかと、働く人の意識が変わってきたこともあります。実際、労働相談センターに寄せられる相談件数は、年間で8,000件以上になるそうです。そうなってくると企業が考えなくてはならないことは、専門職や技術職であっても、【作業の単純化、標準化、マニュアル化】をすることにより誰でもできるようにするのがいいのではと思います。ですが、それも必要ですが、仕事に気持ちを込めることも必要ではないかと思ってしまうので、割り切れません。

これからは、若い人も、50代60代の人、外国人も受け入れることのできる企業にならなければ働く人から選ばれる企業（働きたい会社）になれないのではと思っております。その中で、時間をかけ長期的な期間の中で人材育成を行っていき、優秀な人を掘り起こしてリーダーを育ててゆくことが、企業の永続につながってゆくのではないのでしょうか？



今月もお読みいただき、ありがとうございました。

(株)大成経営開発会長 近藤記

経営まめ知識：『弊社のクラウド経営について』

みなさま如何お過ごしでしょうか？ 朝晩の寒暖差で風邪などひかれていませんか？ 私は、相も変わらず移動の連続で、風邪をひく余裕がないみたいです《笑！！》

ところで弊社では、導入6年目のクラウドシステムの入替中で、IT部隊と現場は、大変熱い日々が続いています。現場がストップできないので土日や平日夜にクラウドシステムを停止して全体を入替中です。

クラウド自体は、ICT（情報通信技術）であり、道具であり、手段です。確かに、クラウドを入れる事によりペーパーレスを含めて考えると、時間当たり生産性は、2倍から3倍に上がり、コストも半分近くまで下がります。コスト削減や生産性を上げる事も、確かに重要な目的の一つです。しかし問題は、その道具・手段というクラウドシステムを使って、何をお客様に提供するのかという事が一番大事で、そこに目的がある訳です。弊社では、以下の2点の為にクラウド経営を6年前に始めたわけですが、それをまた一段と押し進めています。お客様のコンサルティングのために！！

BPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サポート

これは弊社の仕事は会計事務所ですので、経理代行業務の事です。企業規模の大小関係なく経理業務の一部あるいは全部を弊社で請け合うサービスです。そのためのクラウドシステムとベトナムの入力作業などがあります。またペーパーレス化もその一環で押し進めています。



CFO（財務最高責任者）サポート

会計事務所の仕事は、経理作業部分と色々の経営相談があります。お金に関わる事ばかりです。会計・決算・申告・税務調査・資金繰り・IT化・売上・経営・人事・法務・相続・事業承継・M&A・事業計画等々その相談内容は、すべてお金という経営にかかわる問題ばかりです。その相談内容は、広範多義にわたり高度複雑化して益々スピードを求められている時代となっています。このお金にまつわる経営相談に対して会計・決算・申告という形を中心にお客様の経営相談に集中するためのクラウド化なのです。財務経営責任者の機能としての外部財務重役というサービスです。このCFOサポートを押し進めるためのクラウド化なのです。

以上が、弊社のクラウド経営の現状と仕事の目的です。お客様におかれましては、BPOサポートとCFOサポートの仕事内容をよく理解して頂き、本業である経営に集中できるような体制を作る事が目的です。この様に面倒な経理を規模の大小関係なくどの様にシステム化するか？ 利益は勿論のこと、それ以上にお金というものを中心にした経営を財務サポーターとしての機能を特化するサービスをご理解いただきご活用ください。

最後になりましたが、いよいよ来月は師走で忘年会の看板やチラシなどが目につく時期になりました。1年早いものです。益々のみなさまのご活躍を祈念致します。

創業の地：熊本県八代事務所にて



会議長ブログ：自由人石本の毘沙門天世界放浪記
毎日更新しています！是非読んでください！
<http://www.taisei-gt.co.jp/blog/>

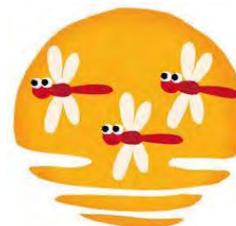
💡 いまさら聞けない相続税の仕組シリーズ

「事業承継と相続」

事業承継と言っても、環境は会社によって様々です。

- ご子息に後継者がいる。
- ご子息に後継者はいるが、まだ若い。
- ご子息に後継者はいないが、従業員へ引き継ぎたい。
- ご子息にも、従業員にも後継者がいない。

など、抱えている課題が違います。



事業承継の方法として大きく3つに分けますと

①親族内承継 ②従業員等の外部承継 ③M&A があります。

今回は、私のお客様にも多い、①の親族内承継について説明させていただきます。

事業承継は、「株式に始まり株式に終わる」と言われております。事業承継の最優先で最重要なのが、株式の承継です。弊社では株式を後継者に如何に移行していくかを模索し、提案しております。

具体的事例は、

- 1株当たりの株価の計算
- 株価を圧縮する方法
- 株式の移行方法(時期、贈与方法等)

を会社の財産や内部環境・外部環境、又は経営者の財産等を考慮し提案いたします。提案の際、注意するのが後継者以外の相続人に対する財産分与です。株式を後継者以外の兄弟にも承継する。といった事をお考えの経営者もいらっしゃいますが、それは、出来ればやめてください。後継者が事業承継したもっと後、兄弟に分けた株式で苦労されている方を多く見ているからです。後継者以外の相続人には、株式とは別の財産を相続財産として用意する事をおススメします。

また、経営者が会社に貸してるお金、いわゆる代表者勘定も相続財産となります。過去、会社にお金がなかった時に経営者自ら会社へ貸し付けたお金です。いくらあるかをご存じでない方は多く、金額が数千万と多くなっている場合があります。将来、会社から返ってくる当てもないなど、問題も多い財産です。

事業承継は、経営権の承継という大きな課題もあります。後継者がいても、株式や代表者勘定の承継の課題もあります。現在、団塊の世代の経営者が多く、経営権を後継者へ引き継ぐのは、まだ早いとお考えの方がいらっしゃると思います。事業承継は、時間を必要とする対策もありますので事業承継計画を立て、優先的な事から実行されてみては如何でしょうか。



岡村 泰

お問い合わせは、ホームページ
九州相続センター  で検索

編集後記：弊社ごとですが、現在システムの入替えをしております。担当のU氏は毎日夜なべして、せっせとお引越し作業をしているらしい。とは言え、リアルお引越しではなく、クラウド上のお引越しなので、汗はかかないらしい。♪かあちゃんは夜なべをして手袋編んでくれた～♪という歌もあるぐらいだから、せめて手袋贈ります。もちろんこちらでもバーチャルにて。はよ、たいせい通信校正作業に戻ってきておくれ～。875

